HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大臼歯部への第三大臼歯自家移植の臨床的検討［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	阿部, 結奈
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(歯学)
Dissertation Number	甲第12161号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62187
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Yuna_Abe_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　博士（歯学）　　氏　名　阿部結奈

審査担当者　主査　　教授　鄭　漢忠
副査　　教授　北川善政
副査　　教授　川浪雅光

学位論文題名
大臼歯部への第三大臼歯自家移植の臨床的検討

審査は、審査担当者全員出席のもと、はじめに申請者より提出論文の概要の説明が行われ、審査担当者が提出論文の内容および関連した学問分野について口頭により試問する形で行われた。審査を行った論文の概要は以下の通りである。

本研究の目的は、大臼歯部に第三大臼歯を移植した症例の治療成績と予後に影響する因子を解析するとともに、移植歯と受容部の関係とその臨床成績を検討することにより、歯の移植の予知性を向上させることである。

大臼歯部に第三大臼歯を移植した症例は 552 例 615 歯で、経過観察期間は平均 2 年 11 か月であった。移植歯全体の 1 年生存率は 97.7%、5 年生存率は 86.2%であった。単変量解析では男性より女性が、異時移植より即時型移植が、移植歯の種類は上顎より下顎が、受容部の部位は第一大臼歯部より第二大臼歯部が有意に生存率は高かった。多変量解析では移植歯の種類と受容部の部位に加え、最後方歯部より中間歯部の方が有意に生存率は高かった。

論文審査にあたっては、申請者による学位論文要旨についての説明後、担当者により研究内容および関連事項についての質問を行った。主な質問事項は、1）遅延型移植の適応と施行時期について 2）自家移植の生着率の男女差に対する考察は？ 3）根完成歯と未完成歯の生着率の違いは？ 4）移植歯として下顎の第三大臼歯の方がよい理由は？上顎の第三大臼歯でも単根歯であれば差はないのではないか？単根歯の割合は調査されているか？ 5）受容部を同顎･対顎、同側･対側に分けて検討した意義は？ 6）三次元 CT を用いて予め作成した移植歯のレプリカから受容部を決定する方法を検討しているか？ 7）非良好群の割合とその内訳、その要因、歯根膜の状態、受容部歯槽骨の残存状態について検討しているか？ 8）移植歯の歯根膜の状態の臨床的評価はどのように行っているか？ 9）移植後 1-5 年経過後に抜歯に至った理由は？

等であった。これらの質問に対して申請者から適切かつ明快な回答および説明が得られ、研究の立案と遂行ならびに結果の収集とその評価について、申請者が十分な能力を有していることが確認された。

本研究結果は大臼歯部への第三大臼歯の移植の治療成績と予後に影響する因子を同一術者の多数症例により明らかにしたものであり、これにより、より予知性の高い移植を可能にするものと高く評価された。申請者は、関連分野にも幅広い学識を有し発展的研究にも意欲的であり、今後の研究についての将来性も期待される。本研究業績は歯の移植の予知性に関して寄与すること大であり、博士（歯学）の学位に値するものと認められた。